

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成 29 年 1 月 19 日（水）

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

【会場】函南町役場 2 階 大会議室

1 出席者

- ・ 発言者 三島市・函南町において様々な分野で活躍されている方
6 名（男性 3 名、女性 3 名）
- ・ 傍聴者 160 人

2 発言意見

番号	分野・所属	項 目	頁
発言者 1	子育て支援	異世代が関われる子育て支援	3
2	女性支援	女性の健康美と意識向上を目指して	5
3	小売業	小さな商店と地域活動	13
4	福祉	長年のボランティアの経験から	15
5	農業	三島馬鈴薯の生産を通して	20
6	地域振興	丹那の地域資源の活用	24
傍聴者 1	—	農業に必要なこと	31
傍聴者 2	—	国民健康保険について	32

【川勝知事】

皆様、こんにちは。今日はまだ正月ではございますけれども、穏やかに皆様方新年を寿がれ、そして元気にそれぞれのお仕事に就かれているということをお慶び申し上げます。

そして、今日はこの広聴会をこちらで開くことができるのを大変楽しみにしております、尊敬するお二人の名市長、名町長さんも今日は御出席いただいております、ありがとうございます。

この三島は大吊り橋で大賑わいですし、元々ございます三嶋大社、あるいは楽寿園、また美術館としても佐野美術館というのがございますが、さらに源兵衛川、これが世界かんがい施設遺産になり、恐らく世界の水資源にもなるんじゃないでしょうか。世界クラスになりまして、また、三島コロッケなど、箱根西麓のすばらしい農産物が日本中に知られるようになっております。

函南の方は、狩野川流域のすばらしい恵み、牛乳や酪農製品の名産地として、そして今さらに注目されておりますのは、伊豆縦貫がここを通る。そして2020年には東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技がこちらで行われるということになりまして、また伊豆は一つということで、私どもも伊豆担当の副知事を任命いたしまして、できる限りいい事はどんどんすると。

そうした中で、森町長さんは道の駅、あるいは川の駅というすばらしい構想をお立ていただきまして、それがどんどん形になっていると。また「美しい伊豆創造センター」、これもおのずと今伊豆半島の入り口でございます函南のところでやるのが一番いいということで、町長さんには伊豆創造センターの中核として奮闘していただいているということでございます。

そうした名市長さん、名町長さんの行政、官民一体になって支えていらっしゃるのが市民の方、町民の方だということで、今日は三島から3人、函南から3人、それぞれ合わせて3人ずつの男女共同参画で、今はレディサムライ、直虎の活躍する時代ですね。御覧になっている人もいますけれども、鶴ちゃんと亀ちゃん、亀之丞と鶴丸がかかってもおとわにはかなわないというぐらい女性の時代であります、今日はそういう女性の御活躍の一端も知らせていただくと。

今日、私は御挨拶しておりますけれども、基本的に聞き役で、今日は県の意思決定者が来ておまして、お聞きして、何か問題があればここで決断ができるということなんです。もちろん決断できない問題もあると思いますが、そうした問題については持ち帰りまして、

必ず担当のところでお返事申し上げ、そしてそれを県政に生かしていく。あるいは市町の御発展のために生かしていくと、そういうシステムでやってまいりました。

そんなことで、今日は6人の方々の御意見をしっかり拝聴いたしまして、もし時間があればフロアの方々の御意見も頂戴いたして、有意義な2時間にしたいと。今日は富士山も誠に霊峰富士にふさわしいような形で、雲間からすばらしいお姿を見せていただいております。そうした中で意見の交換ができるのを大変喜んでおります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【発言者1】

本日はこのような場でお話しさせていただく機会を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。

初めまして。みしまみんなの子育てサロンふぁむの発言者1と申します。三島市を拠点に「三世代でのやさしい子育て支援」を掲げ活動しております。本日は私どもの活動の案内のリーフレットをお持ちいたしました。皆様のお手元にあるかと思いますが、あとはインターネット上でフェイスブックとかアメーバブログといったところで活動の様子も随時更新しておりますので、もしよろしかったらこちらの方も御覧ください。

本日は私どもみしまみんなの子育てサロンふぁむの発足の経緯や取組、活動の中で感じた課題や提案などをお話しできたらと思っております。

私どもの活動の趣旨は、英語・運動を通して異世代をつなぎ、心と体の健康づくりをお手伝いするということです。私が英語活動を担当しております。健康運動指導士が運動を担当しております。そのほかにもおじいちゃん、おばあちゃん世代の方々にもサポーターとして一緒に活動に入っております。

私個人としては、三島市・函南町を始め、周辺市町の子育て支援センターや個人教室にて、未就園児親子から中学生までの英語指導をしております。また、三島市の子ども子育て会議委員、地域づくりコーディネーターとして活動もしています。家庭では小中高と3人の子育て奮闘中の母親でございます。また相棒の健康運動指導士は、社団法人日本親子体操協会静岡県支部長、そして指導者の育成も行い、三島市の三島タニタヘルスコンシェルジュ、三島健康大学講師としての活動など、幅広い年代の運動指導に関わっております。

普段はそれぞれ運動・英語という講師業を中心に活動しておりますが、私たちの得意分野である英語と運動というものを通して、未就園児親子さんや高齢者の方々が共に集える場所をつくりたい、世代を超えて地域社会とつながっていく重要性にたどり着いたのです。

今思えば、それはごく自然なことでした。私たちが40代を過ぎてみて、今身近に関わっている親子さんたちを見ながら、私たちがかつて経験したような孤独な子育てをしていらっしゃる方がかなり周りにいらしたんですね。子どもと逆に触れ合いたいと思っているおじいちゃん、おばあちゃん世代の方々もいることに気づくようになりました。そして今の40代半ばの自分たちがその異なった世代をつなぐことのできるまさに中間の世代であるというふうに強く実感するようになりました。

ちょうどそんなころだったんですけれども、私どもの企画が平成26年度三島市子育て支援団体等活動費補助事業に採択され、お子さんから高齢者の皆さんまで、世代を超えて交流会を開催いたしました。また三島市・函南町の子育て支援センターさんからもお声をかけていただき、以後三世代交流イベントを開催しております。

そして私どもの活動の重要な活動の1つに、三島市の「子どもは地域の宝お祝い会」というものがございます。こちらは今年度6年目を迎えた三島市の事業でありまして、転入してきた未就学のお子さん、新たに生まれたお子さんを地域で歓迎しようという趣旨のお祝い会です。このお祝い会は各自治会や町内会が主体となり、企画・開催され、子供会とのつなぎの場になったり、普段は面識のない方々がこの会を通して積極的に交流を深めています。

ただ、幅広い年代が一堂に会して皆が楽しめる企画となると、何をしてよいのかと悩まれる方々、自治会さん、町内会さんもいらして、そういうときは私どもに御連絡があって、御相談、御依頼をいただくこともあります。その際には実際に私どもは「お祝い会」の場に出向いて、さまざまな年代でも、どんな方々でも一緒に楽しく活動していただけるような英語活動や運動などを御紹介しています。

ほかには子育ての話をしてほしいとか、子どもたちに本を読んでほしいとか、記念になる何か工作をつくりたいとか、具体的な御要望もあり、可能な限りお応えしております。

そしてこの「お祝い会」も回を増すごとに地域力が深まり、独自のさまざまな企画が生まれているとのことでした。

今年度は運動会やどんど焼き、花火大会、お正月のお飾りを作る会や、お餅つき大会と絡めて開催している地域もあると伺っております。そのようにさまざまに回を重ねるごとに地域力が高まるというのは、とてもいいことだなと思っています。

では、ここから私どもの三世代活動に関して、活動しながら感じる課題や提案についてお話をしてみたいと思います。周辺の市町で三世代活動を掲げて独自の取り組みを行って

いる団体、グループは幾つかありまして、皆さんが共通して思っていることは、借りたい場所に制約が多いために、活動拠点の確保が難しい。また、たくさんの方に気軽に参加してほしいと思いつつも、多額の参加費をいただくわけにもいかないので、運営費の確保が難しいといったことでした。

あと、各団体ともに、子育て支援側から見た三世代活動、高齢者支援側から見た三世代活動、あと興味深いものに、同居家族の悩みなどを分かち合う異世代活動というグループさんもありました。それぞれ皆さん発足の経緯や目的にはそれぞれの特色があるんですけども、お互いの情報が乏しくて、横のつながりをつくるのがなかなか容易ではないというようなお話も話題になりました。

世代を超えてつながりたいという共通な思いはあるので、どうにか連携をとって活動ができないのかという話も出ました。私どもが思っている1つの提案としましては、異世代活動を可能に、また活発にする仕組みができればいいなと思いました。特に拠点となる交流施設の整備、例えばここに来れば、いつでもおじいちゃん、おばあちゃん、親子さんがいる。夕方になれば園児さんや小学生も利用できるような場所があると理想だなというふうに思いを巡らせております。

本日は御清聴ありがとうございました。

【発言者2】

発言者2です。肩書きがHiPsというのと公益財団法人ジョイセフという2つの肩書きがあると思うんですけども、普段は平日は三島駅から新幹線通勤で毎日東京の新宿区にいますこちらの公益財団法人ジョイセフというところに勤めております。

公益財団法人ジョイセフは国際協力のNGOとして、途上国、主にアフリカであったり、アフガニスタンのような病院がない、病院があってもお医者さんがいないようなところで妊娠・出産をする女性たちがたくさん命を落としておりますので、そちらの女性を守る支援活動をしております。

実は毎年1回、平太知事のところに訪問を、JICAと一緒にアフリカの研修生ですね、アフリカから日本の経験を学びに来る研修生をお連れして、ジョイセフが県知事の元に行ってお話をしているわけなんですけど、去年は三島の保健センターの経験を学ばせてもらおうということで、実は静岡県で日本全国の中でも健康、皆さんの保健ですね、健康を守るシステムが優れているということで、海外からも注目されているんです。ここをぜひ見てもらおうということで、アフリカの方々、アフガニスタンのの方々、南米の方々をお連れして

見せています。静岡県はモデルの地域でもあります。

そんなことを普段、私は仕事にしているわけなんですけど、今日はせっかくなので三島市を中心として活動している HiPs の活動について皆さんに御紹介したいなと思ってきました。

HiPs なんですが、名前は HiPs、お尻ですね、ヒップ。ヒップアップのヒップです。H は健康の health の H です。i は inspire、元気にする、広げるという意味があります i、Ps は pretty smile、極上の笑顔。極上の笑顔のために、健康で、元気づける活動をしていこうという団体です。

主に女性をターゲットにして、「女性の健幸支援」。「けんこう」といっても三島のスマートウェルネスという言葉が皆さん聞いたことがあると思うんですけども、「健幸」の「こう」は幸せの「幸」を書きます。健康でハッピーで美しくなろうという支援をしているのが HiPs です。

女性の性や健康美をテーマに女性向けの講座・イベントを企画し、参加者が一人の女性として自分自身と向き合う時間、自分を愛でる時間を提供しています。活動収益はすべてチャリティへということなんですけれども、チャリティって何だと一瞬思った方、いらっしやると思います。実は HiPs を立ち上げたきっかけとなったのが東日本大震災なんです。

私が仕事を通じて東北に出張に行きました。東日本大震災が起きた半年後ですね、ちょうど5年半前になります。そこで岩手県大槌町、釜石の隣にありますけれども、そちらで避難所に行って、まだ避難所から出られない女性たちとインタビューをしていたんです。

そのときに私が「静岡の三島というところから来ました。」と言ったら、その女性に逆に質問をされました。「静岡って地震が来るって言われているじゃない。地震が来たらあなたは2kmを逃げ切ることができる？」「2kmじゃなくても、100mの山を越えることができる？登れる？」「もしあなたに幼い小さい子どもがいたらその子の命守れる？」と聞かれたんです。

びっくりしまして、何を言うんだろうと思いましたが、その方は70歳近くになる女性でしたけれども、私と同じ年の娘さんを津波で亡くしていました。娘さんを亡くしていて、3人残された子どもたちをその女性が育てていました、おばあちゃんが育てていたということですね。あなたはこちらの支援をしてくれてうれしいけれども、これから地震が来る人たちにはぜひ体力、健康であってほしい、その人たちの言葉が私の胸に本当に突き刺さったわけです。

その当時の私は今より実は12キロぐらい太ってしまっていて、運動とは無縁でして、産後太

り、子どもを産んだせいにしたんですね。これは母親の勲章だ、ぐらいいい感じでした。母親になったからしょうがないみたいな、太っていたので、ぎっくり腰もしていたし、とにかく体の故障、肩こりもひどかったですし、故障が絶えなかったですね。

その私に、被災地で出会った女性の言葉で、私ももしかしたら地震が来たら自分の子どもどころか、自分自身も助からないかもしれないと本気に思ったんです。

この話を三島に帰ってきて、三島のママ友達にしました。私たちも健康になろう、何か始めようということで、そこから週に1回、歩くであったり走るであったり、私は加圧トレーニングといって、30分なんですけれども、それをすることになりました。そこからみるみる体重がもちろん下がりましたし、体力もつきましたし、筋力もつけて、不思議なことに肩こり、腰痛がなくなったんですよ。それはやっぱりいいことなので、これぜひぜひ広めたいよねと。そして東北の被災地の女性が経験した言葉、これをみんなにシェアしたいよねということで、2013年3月11日、ちょうど震災のあった2年後にHiPsを立ち上げて今に至ります。

HiPsの活動は本格的に始動して3年間ぐらい、三島市の健康づくり課と一緒に御協力いただきまして、さまざまな活動をしてきました。主に毎月、今定例になっていますけれども、満月の日にみんなで集まって走る満月ジョギングなどを開催したり、走るのがちょっと苦手とか、ひざが悪くて走れないという方のためにウォーキングであったり、ときには啓発のセミナー、皆さんで話し合える場所を提供しています。

不思議なことにHiPsは女性というところをテーマにしているので、本当に10代の大学生から70代の女性が集まっておりまして、ここに集う人たちが1世代先の女性たちにすごく刺激を受けると、皆さん言うわけです。30代はああいう4代になりたい、40代の私でもああいう70代を迎えたいなって思うような人たちがたくさんいます。なので、ありがたいことにHiPsに集う人はいつも笑っているよね、きらきら輝いているよねと。なぜかHiPsに来るとみんな笑っているよねと言われて、それは私たち主催者側も大変うれしいことです。

こんなことをやりながら、ゆるゆると活動しているんですが、最近はこの函南のオラッチェさんと一緒にビールをつくったりもしまして、今日静岡新聞の朝刊にも載っていますが、新しいビールが登場し、こういったところで飲んでも食べても美しくあろう健康美ということで、私たち走るの健康になるので、もちろん走っているんだけど、楽しくなければ続かないよね、楽しいことはあきらめたくないよねということで、飲むことも

食べることもあきらめずにやろうということで、やっている団体です。

そういう中で私の夢がありまして、実はこの資料にもたまたまあったんですが、「健康寿命日本一静岡ふじのくに」となっています。静岡県は健康寿命ナンバー1、誇れる県なんです。日本というのは世界で一番寿命が長い、長寿を誇る国なので、海外からは昨年伊勢志摩サミットG7がありましたけれども、なぜか日本の報道はオバマさんと安倍総理が広島に訪問したということしか言われてなかったですけども、あの会議で話されていたことって、実は保健というテーマが結構深かったんです。

海外は日本の保健、健康で長生きするということにもものすごく注目しています。そういった中で私はこの静岡県が健康寿命ナンバー1だということは、世界で一番、ナンバー1ですよ、健康で長く生きる。そしてこの三島を中心とした静岡東部から、健康で長生きできるだけじゃなくて、ハッピーで美しい長く生きられるこの地域というところを発信していきたいというのが夢なんです。

そこで知事、私の提案といいますか、懸念しているところが1つあります。今、安倍総理が女性が輝くとか、女性が活躍するということで、ものすごく女性の就業をバックアップしようということでやっています。女性の就業をバックアップするということで、今、報道とかで話題になっているのは保育園の問題が話題になっていますけれども、育児・仕事・介護、全部これを女性がやっていくのか。女性の健康、ぼろぼろじゃないかなって、すごく懸念をする私であります。

その中で、いつ女性は解放されるんだろうと思うわけです。HiPsとしては、女性が解放されてパワーチャージする、女性が見つめ直す時間というのをすごく大事にされていて、これがあることで明日の活力が生まれる、子どもにも笑顔でいられる、家族にも笑顔でいられるという方が多いわけです。これを推進するためには、男性の意識であったり、地域社会の意識が、本当に月に2日でもいい、週に3時間でもいい、女性をフリーにする時間、解放する時間を与えていただきたいと思います。私は思います。

これをHiPsを中心に、私たちとしても地域の活動として広げていきたいと思っているところなんです。後ほど知事にお聞きしたい、知事はどう考えられているのかなというところをお聞きしたいというところです。以上です。

【川勝知事】

三島の発言者1さん、発言者2さん、女性パワー炸裂という感じで圧倒されておりました。昨日英語で子どもたちに教えられて、のどを潤らすぐらいやられていたということで、

どうも本当にありがとうございます。

御両者とも三島市の御協力があって活躍されているということがわかって、これは女性を支える1つの見本かなというふうに思っております。まず発言者1さんのところが三世代一緒にするという、もちろん運動とそれから英語という、それぞれ英語の先生もなさっておられたし、運動の資格を持っておられる女性が自分たちの子どもを育てるときに、孤独で辛かったと。

これは東京に住まわれている若い夫婦は、大体共働きが多いですし、大体70平米から80平米くらいのマンションを2人でローンを組んで住んでいるということですね。そういう方たちが多いので、なかなかおじいちゃん、おばあちゃんにそこに来てもらうわけにいかない、寝るところがないということがありますから。したがって、自分たちの子どものおきにはおじいちゃん、おばあちゃんに預けるとか、御一緒に住んでいるということがあったんですが、それができないということからどうしようかということで、三世代で一緒にいることの大切さを訴えられたと思いますが、私は本当にそのとおりでと思います。

大体『桃太郎』の話を思い出してください。おじいさんは山に芝刈りに行って、おばあさんは川に洗濯に行ったのであります。桃が流れてきて、割ったら元気な男の子が出てきた。これありていに言えば、自分の孫でない人を育てたということじゃないでしょうか。

あるいは富士にはかぐや姫ミュージアムというのが今度リニューアルオープンしました。おじいさんが竹を切りに行ったら輝いている竹があって、そこを切ってみるとかわいい女の子が出てきて、美しく育って、宮中からも求婚が来たという話ですけれども、これも竹藪の女の子を育てているのが誰でしょう。それは、かつて子育てを経験したことのあるおばあさんだと思います。こんなかわいい子だったらというので、それを理解しているのがおじいさんではないかと思えます。

だからもうこの上なき愛情を、つまり親のわがままではなくて、おじいさん、おばあさんの掛け値なしの愛情だけを孫に注ぐというか、孫の世代に注ぐということがすばらしい『桃太郎』になり、また『かぐや姫』になったというそういうものとして、『一寸法師』もそうですね、育てるのはおじいさん、おばあさんでしょう。

ですから三世代というものが大事で、その人たちの拠点が欲しいと言われていると。今空き家をどうするかという問題もありますので、ただし集まりやすいところじゃなくちゃいけないし、使いやすくないとちゃいけません、そうした場所の提供がまず第1で、それからそういう仕組みも何とかつくれば、つまり居場所づくりですね、これができれば子

育てをみんなで一緒にできるんじゃないかと。

しかし一方で、ただただ集まるのではなくて、それぞれの持っている専門性、発言者1さんの場合ですと英語で歌を教えたり、恐らく英語の発音を教えられたりされているでしょう。恐らく相方の健康運動指導士さんは健康になるための運動を教えておられるということで、地域の子どもを学校の先生だけでなく、お母さんとして自分が小さな子どもを中学生や高校生にまで育て上げたその経験を若いお母さん方、そしてそこに子育てを卒業された方たちも入れ込んでやっていくというのは、これからの時代の子育ての形じゃないかと思います。

この仕組みをどうするかというのは、これは本当に一緒に考えないといけませんね。今静岡県のいわゆる子どもを女性が一生に産む平均1.53人なんですけれども、函南も三島もちょっとそれより低いんですよ。ですからこれ伸びしろはあると思います。大体皆2, 3人は欲しいと。2, 3人の方が子どもにとってもお兄ちゃん、お姉ちゃん、あるいは妹、弟がいていいということでしょう。それをまたもっと広く同世代、あるいはちょっと年齢が違う子が一緒に集うところがないと、学校に行くと同じ学年の子としか遊びませんから、ですから本当に子育てを地域の宝としてそういう事業を三島市長がなさっておられると。

それは昔からそうでしょう。「白銀も黄金も玉も何せむにまされる宝子にしかめやも」ですから、今も「子育ては命をつなぐ幸せの愛を育む尊い仕事」という歌になっています。

これは子育てほど大事な仕事はないということなんですね。ですからこれ本気でやっばりやっていきたいものだということで、この拠点を何とかしてくれということですね。

それから、やっぱり親の子に対する気持ちと、おじいちゃん、おばあちゃんの孫に対する気持ちが違う、こうしたものも話し合う場所も必要だということで、そのあたり世代を超えたつながりを持つ必要があるという御提案なので、この提案、すぐにかこうすればいいというのはありませんけれども、それぞれ地域に応じた形で、場所の提供がまず最初かなとは思いますが。それも通いやすいところ、明るいところ、危険でないところ、そうしたことが条件になってくるとは思いますけれども、市役所の一角をとくか。

それから三島駅の東のところ、あそこ空き地でしょう。あんな駐車場だけじゃもったいないですからね、皆さんにとっていいようにするとか、せせらぎがありますから、川辺で遊べるようにするとか、そういういろいろなやり方があると思いますけれども、三島らしいやり方で、発言者1さんがなさっておられるふあむの活動が私たちとしては応援をしたいということしか言えませんけれども、素晴らしい活動だと思いました。

それから発言者2さんのジョイセフは、これは人道的な活動としては、これに勝るものはないと思うくらいです。ですから本当にアフリカ、35億人の人たちが持っている富というのが、全世界で上から8人の富と匹敵するというくらい、実は飢えている人が10億人以上いるわけですね。そういう人たち、なかんずく子どもが餓死するというような状況の中で、それを何とかしたいというふうにおっしゃっていて、こういう非常に心が優しい気持ちにあふれた人たちの集まりですね。

そして大槌町というのは、花巻空港というのがあります。そこからずっと行くと遠野というところがあります。遠野からさらに東に行くと釜石というのがありまして、その釜石の東、三陸海岸を上がっていくと大槌町に出ます。それから山田町というのがある、その大槌町は町長さんも流されました。庁舎も流されました。そしてその後、何と火事が起こったところなんです。だからもう水攻め、火攻めですね。本当にひどいところで、私はそこに3月25日、発災から2週間後に行って、飛行機が待っていたものですから、どなたか一緒に来ませんか、もう2週間もたっているの、温泉に来たい人は連れて帰るからと言って、山田町に行って、帰りにどなたかいませんか、「いやあ、ありがたいお申し出だけでも、私たちは皆一緒に被災したので、ここにおります」と言われて、そこに行かれたわけですね。

そのときに自分の子どもを亡くされた方のお話をされました。だから体力をつくるために、ジョギングをしたというんですから。

ともかくそういう運動をしながら、そして健康寿命世界一ですね。特に静岡県の女性がそうなんです、世界一なんです。これはもう人類の希望です、健康で長生きするということは。全世界の人々の最もだれもが望むことですよ。それをやっていく、もっと延ばしたいということになさっておられるということなので、これは健康寿命をさらにこちらで延ばしていただくという運動として、このHiPs、ハピネスだそうですね。ハッピーであると、幸福であると。

それから人は元気の反対は病気でしょう。だからすべて気からですよ。気が元気、それから病気の大体間にいるわけですが、未だ病気ならず、これを最近では未病といっているそうですけれども、その間ぐらいにいると。なるべく元気に行く。元気になると幸せになる、こういう考えですね。幸せになると笑顔がこぼれるということで、もとは元気になるためには健康で、健康にするためには何らかの運動をするというそういう運動で、実は目的は幸福だということで、お二人ともそうしたインスピレーションがすごくて、40代の前

半というのはすごいなと思いました。この人たちは恐らく同じ世代の男の人たちにはかなわないじゃないですか。

なぜかなわないか。1つの理由は、長く学歴社会と言われたでしょう。平成元年に女性の大学進学率が男性を抜きます。それは平成元年、つまり今平成29年でしょう。平成元年に18歳、つまり高校を出た子は今29を足しますと幾つですか、40代ですよ、47歳です。

だから47歳以下の女性は、学校で共学で中学に行き、高校へ行き、大学も昔は大学なんかに行ったらお嫁に行けないと言われたのが、それがもう皆行くようになって、だからそれこそずっと高校でも中学でも、私たちのときは女の子は大体就職したり、お嫁に行っていました。僕は昭和23年生まれですからそういう世代です。

ところがこの方たちは違うんですよ。かなわないわけです。日本の女性は世界で一番健康で美しくハッピーだということであれば、もう初めから逆らわないで、一緒にやればいいじゃないかと。

前回1回目の亀之丞とおとわさんですか、あの話がありましたでしょう、私が支えると言ってくれた。実際はもう亀之丞なんかたじたじでしたね。そういうのが今の現状だと思いますね。本当は私は男の子にはもっと益荒男ぶりをやってもらいたいと思いますけれども、いましばらくはちょっとかなわない時期が続くそうなので、彼女たちにやりたいようにやってもらうのが日本を元気にするんじゃないかとすら思った次第でございます。

それからどう思うかということですね、女性が解放されなくちゃいかんと。そのとおりですね。かつて実は武家というのはほんの数パーセントしかいませんでした。町屋においても、なかんずく農業をしている人たちが日本は150年前までは全部そうだったわけですから、みんな男も女も一緒に田んぼに出て、農閑期も農繁期もいろいろと一緒にやっていたわけです。子育ても一緒です。ですから男はこれをやる、女はこれをやるというのは、サラリーマン時代になってから出てきた近々の100年ほどの歴史ですから、もとに戻れば一緒にできるということです。

だから解放という厳しい言葉を使われなくても、お互いに相手の自由を尊重する、個性を尊重するというふうにしていけばいいと思いますが、なるべくそれを先取りすればいいと。どっちにしたって、今40代の後半ぐらいの人たちが、あと10年たったら50代の後半になります。そうすると部長とか課長とか、いわゆる役職に就く、あるいは社長になられる、そういう時代が来るんですよ。こういう方たちがトップになられてごらん下さい。女性はどんどん、どんどんとやっていきますから、そういう時代がやってきますので、それ

を先取りしてやれば良いというふうに私は思っています。

県でもそういう考えでやっておりますけれども、まだ抵抗勢力は相当ありますよ。それをそうじゃなくてどっちにしても変わるといふ先を見る力を持って、ならばいい人はちゃんとそういうふうにして活躍の場を与えていくというふうにした方が時代を先取りすることになるというふうに思ひまして、これも抽象的な答えですけども、そういう考えを持っております。ありがとうございました。

【発言者3】

二人の女性のパワーに圧倒されまして、何から言おうかと戸惑っているところですが、50年前に函南町で生まれ、30年間魚屋の二代目として奮闘している発言者3です。

函南町の間宮という地域で50年魚屋が続けられたなど、よく後輩に飲んで席でほめられたりもするんですが、本当にそれはどうしてかなと自分でも不思議に思います。ただ私、家に入って、すぐ消防団に入団しまして、そういう地域のボランティアを通じながら7年間、そしてその後体育指導員をやりながら、またその後消防団と、いろんな活動をしながらか、いろんな諸先輩方に指導していただきながら、そのときは結構生意気な口をききながら、おれはこんなに頑張っているのに何でだろうなということを愚痴ってばかりいたのが20代のころだと思います。

そういう中でも大きな目で育てられながら、アドバイスをもらいながら細々ですが頑張ってきて、いい知恵、アイデアとか、いろんなもの、もちろんそれだけではなく、うちのかみさんの女性のパワーですね、女性の柔らかいアイデア、そういうものもありまして、魚屋としてはなかなか厳しい時代があったときに、10年前にオリジナルビールの企画販売を始めました。それが軌道に2、3年後ぐらいにいろんな方の支援とか協力を得ながら、一番最初につくったのは函南といたら平井スイカが有名でしたので、平井のスイカビールをつくろうと。それを函南のお祭りの猫おどりに当てて販売しました。

最初はいろんなところで試飲会をやりまして、まずい、こんなのビールじゃない、いろんなことを言われまして、私はしょぼけたのですが、かみさんは「私はおいしいと思うんだけど」というところで、何年も何年も改良しまして、今ではおいしく飲めるような本当のビールになりました。

ビールといっても、瓶内熟成させているものですから、味がどんどん変わっていくんですね。そういう特徴あるビールで、伊豆のお土産になればいいなというところで発売を始めたのが10年前。今でもわさびビール、イチゴビール、これから河津の桜の時期になりま

すので河津の桜ビールとか、ふじのくにビール、これを今定番で売っているんですが、女性が普通のパートで働くということで考えれば、そこそこの収益があつて利益もある、そういうふうには育っています。

本業の方の魚屋はどうかというところですが、ふるさと納税ということで、去年の夏、役場の方からお声をいただいて、アジの開きどうですかとって、函南でアジの開きといつてもぴんとこないなと思うんですが、おかげさまですごく反響がありまして、それも人手が足りないくらい忙しい商品になっています。

そういうような形で、私がいろんな方々の支援を受けて、アドバイスを受けながらこうやって成長させていただいて、今ここにいるというところですので、今後私が逆に息子世代に、目の前に三島市長がいらっしゃいますが、私の息子も野球の方で大変お世話になりまして、それも一人前になって今頑張っております。そういう息子たちも野球とかそういう中で、いろんな会話もできますし、何とか曲がらず真っ直ぐ育ってくれたので、野球をやっていてよかったなという思いもあります。

ただ、これは私が体育指導員を9年間やっている中で、子どもと一緒に体を動かしたり、キャッチボールしたりとかというところで、なかなか函南町、その当時はまだグラウンドでキャッチボールをやるとか、自由にできたところもありました。でも今はなかなかそういうところがありませんので、子どもが自由に運動できる場所というんですか、そういうのが制約されているところがあつて、今の子どもはちょっとかわいそうだなというところがありますので、何か思いきり体が動かせるようなところがあつたらうれしいなという思いもあります。

商売の方の話に戻りますけれども、こういう私みたいな小さな自営業者がこうやって細々とやっていると、そういうチャンスを函南町のイベントとかそういうところに参加させてもらっている中で育ててもらっていたので、私の今東京の方にいる息子が調理師をやっている、こちらに戻ってきて仕事をしたい、3月いっぱい東京の仕事をやめるので、こっちで今就活中でございます。

こちらで何か仕事がないかなというようなところで、今就活中ということなんですが、その子どもたちが安心して子育てができるというようなところで、いろんな支援の形とか聞いて、すごく安心をしまして、若い世代のお母さんが最近うちに買い物に来たときに、「函南町に引っ越してきました。出身は中伊豆からです」ということで、そういう若いお母さんがちょっとずつ買い物に来るようになって、「何で函南町なの？」って言ったら、

「函南町って住みやすいです」という答えが聞けたんですね。そういうお母さんたちが2, 3人ぐらい来てくれました。

そういうふうに函南町って、私は全然気がついてないですが、そういう住みやすい町なんだなど、そういうところでちょっとまだ発信力が足りないんじゃないかなというところがありますので、それをもっと外に発信する、すごく函南っていいまちだよというところを、私も含めて発信できたらいいなと思っています。

そして私が育てられたというところで、大きいところの企業がいろいろ出店とかはしています、例えば個人の人頑張って何か商売をしたい、そういうことに対してサポートしたり、いろんなことをして、一人前の商売人に育て上げる、そういうことを長期の目で何かできる、そういう町であったらいいなと思っていますので、それについて何か知事のアイデアとか考えがあったら教えてください。以上です。

【発言者4】

函南町福祉協議会会長の発言者4と申します。よろしくお願いいたします。

私は函南町の社会福祉協議会の会長という役、何でだろうと思った、多分長いことボランティアをやってきたということで、私にお話があったのかなと思いました。それで私は6年ほど函南町の社会福祉協議会の副会長も仰せつかってやっていますが、それは本当に大きな大会、函南町でいいますとふれあい広場とか、福祉大会のときの開会の挨拶、閉会の挨拶で、あとは本当に理事会に出ているくらいで、そのときに本当に会長って大変だな、わあすごい会長の職というのは目の当たりにしていましたから、絶対私が会長ということは考えられないことでした。でもこういうことになりまして、今ここにいるわけですが、福祉の代表というようなことでお話をいただいております。

私が長いことボランティアをやっていたというのは、30年以上前に、まず医療事務で勤めていた小さな民間の医院に聾啞者が来たんです。そのときにわあ困った、何もコミュニケーションのとりようがない、さあ困ったということで、函南町にはそのころ手話を教えてくださるところがなくて、三島の手話サークル四葉友の会というところがありまして、それがちょうど立ち上がって2, 3年たったときだったと思います。

その手話の勉強をしております、それからそのころ、まだ手話通訳、そういう制度はありませんでした。ですからできる人がその聾者に付いて、幼稚園、小学校、中学校に行き、手話教室のお手伝いをするとか、それから三島で手話通訳制度をつくって立ち上げたことがありまして、そのときにも一応登録しまして、いろんなところに行き、成人式

の通訳をしたこともありました。

そんなことでやっていたんですが、平成4年にたまたま私の特技を知っている方がいて、施設で日長1日シーツ交換のときに困っている、入所の方たちに何か刺激を与えて頂戴よということで始めたのが、施設に行つて歌を歌ったり、お話をしたりということでやっております。それから、ずっとそれを続けていろんな施設が増えていって、またそこも対応したりして、何か本当に忙しいなと思いつながらも、楽しくやっております。

それで、何でこんなに長くボランティアをやってきたのかなと思つたときがありました。ああ、これボランティアって自分のためにやっているんだと思つたんです。先ほどもありましたが、本当に健康でなければ笑顔もできませんし、本当に元気でいなければ施設にも行かれませんが、どんな方にお会いして、いろんな楽しいお話もできませんし、そんなことで、ああ、何だ自分のためにやっているんだ、ああ、こうやって私がこんなに元気でいづもいられるのは自分のためなんだなということを感じながらやっております。

でも残念なことにこれを4月から受けたおかげで、今ボランティアができない状態でちょっと残念でございます。そんなことです。

今、その社会福祉協議会の会長という立場で、社会福祉協議会は今年度から第5次函南町地域福祉活動計画というのをつくりまして、その中で「心ふれ合う豊かな福祉」というのをスローガンにやっております。いろんな事業をやっているんですが、その中で1つ御紹介したいのが、函南町で昨年度からですけれども、ベビーキッズ用品の貸し出し事業を始めました。

これを始めましたら本当に多くの方からの御要望がありまして、ただいまベビーカー、それからベビーベッド、それからチャイルドシート、ジュニアシートなどを皆さんに貸し出しております。最長は1年なんですが、使っていると汚れますので、その後返すときには些少のクリーニング代は御本人からいただいて、また次の方にとということでやっております。

本当にこれは、また備品を、今こちらにあるのは本当にベビーベッドが今クリーニングに出しているし、それから在庫があるのはジュニアシートが2つぐらいしかないんです。

もうどんどん、どんどん貸し出していますので、またどんどん備品を増やしていきたいなと思つています。本当に若いお母さんたち、やはりベビーベッドにしても、1年ぐらい使えばすぐ、そんなに置き場所に困ってしまうようなものですので、本当にこういう貸し出し事業というのは、皆さんに喜ばれるのは、そうだな、自分が子どもを育ててきた経験

からそう思いました。これは一応5年は予算が出るそうです。でもその後もまたぜひいい事業ですから、何か考えていただくとありがたいなと私自身は思っております。

皆さん本当に何かがありましたら、困ったら社会福祉協議会にお電話いただけたら。それで函南町の地域包括支援センター、そういうところにもお電話いただければ、本当に些細なこと、本当におじいちゃんが、おばあちゃんが、今自分のうちではこうだとか、いろんなことで、どんなことでも御相談に乗れる、何かしらお力になれると思いますので、ぜひ函南町地域包括支援センターも含めた函南町社協にお電話をぜひいただきたいなと思っております。

簡単ですがありがとうございました。

【川勝知事】

今回は函南町のお二人、発言者3さんと発言者4さんにお話を承ったわけですが、発言者3さんは実は商工会の青年部の県の会長もお務めになった方なんです。こんな自分だけとおっしゃっていますけれども、そういう人望のある方です。発言者4さんは、今から4、5年ほど前に、本当に素晴らしいボランティアといえますか、福祉の活動を続けてこられまして、県知事賞を差し上げているくらい函南町の誇りとされるべき人材であります。

まず発言者3さんですけれども、消防団に入られて、分団長まで務められた経歴の持ち主なんです。しかし魚屋さんというのは女性も相手にするし、もともとそういうお気持ちがある方じゃないかと思うんです。消防団は今2万人います、静岡県に。そのうち女性が2、3百人ですね。もうちょっと多い方がいいじゃないかと思っているので、発言者3さんに期待したい。いろいろとそういう影響力を発揮していただきたいというふうに思っております。

また、ビールをつくられて、スイカだとか、ワサビだとか、イチゴだとか、それから河津桜の桜と、非常にユニークですよ。だけど、ワサビはちょっと苦いかもかもしれませんが、あとは皆女性好みですよ。ですからお母さんが素晴らしいんじゃないかというふうに思いましたね。そして調理師になったというのは、恐らくおいしいお魚を小さいときから食べて育て、元気に二代目を継がれて、そして今次男坊さんが調理師になられたと、長男坊さんは野球で活躍されたというのは、健康であると同時に舌が肥えているんじゃないかと思います。舌が肥えているから、うまい・まずいがわかるし、女性好みのビールを失敗してきたというか、なかなかおいしいと言われなかったと。それが奥様から今度のスイカビール、いいわよとかと言われたら元気になりますね。

ですから、そういう幸せなことで、今度次男坊さんが継がれるともっといいなど。そうすると家光の段階に入りますので、3代目ですから、それはすごくいいと思うんですが、私は恐らく発言者3さん御自身はこちらで育てられたかもしれませんが、おぼっちゃん2人が外に出られていると。中伊豆ですか、そこから来られた人が函南は住みやすいと。実は外がわかっていると自分の発見があるんですね。

ですから私は今、人口流出が甚だしいので出るな出るなというそういう運動が一方ありますけれども、出てらっしゃいと、見てこいと、そして経験していらっしゃいと。だけど人生誤らないためには、それこそ東京で結婚でもして終の棲家になるときに、そこから出られなくなるぞと。東京は人口のいわゆる合計特殊出生率、女性が一生で何人子供を産むか、一番全国で低いんですね。そういうふうな生活しかできないので、つまりあそこは蟻地獄なんですよ。入ったら出られないわけですね。そんなことでどうするかということをやちゃんと言ってあげる必要があります。結婚のときだとか、それから就職のときもそうですけれども、どうするかということを書いて差し上げるというのが親切というものです。

それからもちろん受け入れる、そういう場を獲得していくということが大事なんです、両方大事ですけれども、若い青年が外を見るというのはすごく大事だと思います。いかにおいしいものがあるか、いかに美しい景色があるか、いかにすばらしい仲間が、あるいは地域であったかということを見直す、そういう時期は青年にあった方がいいというふうに思いますので、あんまり守りの姿勢に取るよりも、出ていらっしゃいと。戻ってきたら、よく戻ってきたと。そのときに町や市や、あるいは県が、あるいは町の衆と一緒に職場、これを提供できるように、今私どもは東京が中心ではありませんけれども、大学と提携を結びまして、結ぶというか向こうも静岡県からたくさん若者が来るので、もっと大学に来てほしいわけですよ。

私どもはそこの就職部にもものすごい情報を提供しまして、もちろん静岡出身の者が基本的に相手ですけれども、だれが来ても構わぬということで情報提供する。高校あたりで外に出て、そのときに地元のことであんまり知らないものです。せいぜい小学校、中学校ぐらいで、学校との往復でしょう。そしてさらに高校に行っても、なかなか地域のことというのは知らないものなんですよ。

ですから、大学に行ったときに知らないままにどこかに行ってしまうということがあるので、そういうことを防ぐために今やっておりますけれども、ただ基本的なことは、若い青年たちはあるとき親元を離れたいと思う。それをわざわざとめるほどのことじゃなくて、

自由にさせてあげるといふのも、これは親心じゃないかと。かわいい子には旅をさせるというこゝで、そういう形でいいじゃないかと僕は思っておりますね。地元のまま成功する事例として今の発言者3さん、出して成功している事例としておぼっちゃま方と、こういうわけじゃないかと思ひます。

それから発言者4さんのお話は、本当に優しい方だと思ひんですが。手話を勉強せられて、今度はそれがいろんなところに慰問をして歌を歌ったりされていると、何かいろんな日本舞踊と三味線とかもなさる方なんですよ。発言者4さんの能力を知っている方はいる。そういうものを活用してボランティア活動をしてこられました。

私はものすごいことを言われたと思ひますよ。ボランティアというのは人のためにやるものだと。しかしそれがさすがにこういう立派な方ですから、情けは人のためにならずという言葉もありますけれども、人のためだと思ひていたのが、結果的には自分のためにもなっていると。恐らくそれは一番基本的なところで、お父さんやお母さんが子供のために一生懸命にやると。子供が幸せになってくれれば親は幸せではないですか。やがて親が年老いて、子供が親のために一生懸命すると。お父さん、お母さんがすごく幸せだと、あるいは自分が幸せになりますね。

ですから、結局人を幸せにするということが、結果的には自分のためにもなっていると。ボランティアは元気でなければできないし、しかも他人を相手でありますから、人のため、世のために働くことが健康を結果的につくることになって、健康な心もつくって、結果的に自分のためだというそういう見本ではないかと思ひます。何か自己中心の方がままいらっしゃいますけれども、本当にその方が幸せかという、そうじゃないかもしれない。本当に人のために何かしている方というのは、笑顔も美しいし、そしてまた生き方も多くの人に尊敬されるので、尊敬される人はやっぱり幸せな人だと。軽蔑される人と比べて断然に幸せになれることだと思ひます。

こういう意味で函南の社会福祉協議会は、こういう消防団、あるいはこういう社会福祉協議会で成功している事例じゃないかと。特に函南町長さんは、うちの県庁ですごい立派な仕事をされて、実は三島市長もそうですけれども、県庁出身の市長さんとか町長っていいじゃないですか。やっぱり1回広域のことを仕事をされているということが、それはよく行政に通用しているということでしょう。それを自分のふるさとであるとか、あるいはいろんな縁があつて、そこで力を発揮するといふときに、これが生きていくんじゃないかと思ひますが、函南町、三島市に勝るとも劣らず、すばらしい今人材が育っているとい

うか、活躍されているというふうにした次第でございます。特段私の方から手伝うというか、これをよく知らしめろと、そういうことではないかというふうに承った次第でございます。どうもありがとうございました。

【発言者5】

皆さん、こんにちは。三島市の住所で言うと伊豆佐野という三島でも一番北側の裾野市寄りのところで農業をやっています発言者5といいます。今日は年に数回しか着ないスーツを着てきましたので、なかなか皆さんの前でしゃべるのは苦手なんですけれども、一農家として僕のやってきたことから、何かヒントになったりとか、最後には知事を含めていろんな提言なんかも2、3言わせていただきたいかなと思うんですけれども、今日はよろしく願いいたします。

なかなか自分がやってきたことを5分程度でしゃべるといっても結構大変なので、簡単にまず自分がつくっているものは、三島馬鈴薯というメイクイン、三島甘藷というサツマイモです。あとは大根、ニンジン、ショウガなんかを年間約合わせて6町歩ぐらいつくっています。6町歩というと、この三島・函南では結構わりかしやっている方の農家かなというふうな感じですね。ベースは家族で、私と妻と両親と、あとは期間雇用で数名のパートさんを入れて経営しております。

何を話そうかなと思ったんですけれども、やはり三島といえば三島馬鈴薯かなということでありまして、一応肩書きも私今回馬鈴薯部会の副会長という役をやらせていただいているので、その話を中心にしていきたいなと思います。

三島馬鈴薯って、今日ここにいる皆さん、ほとんどの方はもう御存じのものだと思うんですけれども、市場流通している中で日本で一番高いジャガイモですね。品種はメイクインです。皆さん、気をつけないと、どこかの売り場で「三島馬鈴薯」と書いて男爵を売っているときがあったんですよ。僕びっくりしちゃって、三島馬鈴薯というのはちゃんとJA出荷のメイクインですよというのを結構市長さんなんかも必死に毎回毎回言っているのに、いまだにそんなのがあるのかと、ちょっといろんな売り場で見てびっくりすることもあるんですけれども、三島馬鈴薯というのはメイクイン、これだけでもぜひ皆さん、再確認していただきたいと思います。

最大の特徴は、手掘り・風乾・選別、この3つの関門をくぐり抜けた一品なんですけれども、収穫が夏場の6月ですね、非常に暑い最中、畑に四つん這いになって、手でジャガイモを掘るんですよ。恐らく日本中のジャガイモ農家のところに行っても、ジャガイモ

を手で掘っている産地は多分三島だけじゃないかなと思います。

何でそんなことをするのかというと、1つ1つ皮がむけないようにきれいに掘るんですよね。機械ですとどうしてもローラーで掘っていくと皮がむけちゃいますし、皆さんもよくスーパーで新ジャガなんて売っていると、袋の中で相当皮がむけているジャガイモがあるんですけども、三島馬鈴薯というのは傷1つない、本当に見た目もきれいなメイクインです。

あと風乾といって、収穫して一定期間貯蔵するんですね。そのことによって非常にうまさも増して、非常に買っていただくお客様にとって持ちのいい芋になります。

選別というのは、JA三島管内の馬鈴薯部会で統一した機械選果という全部会員が共通の選果基準を守って出荷されておりますので、まさに見た目もよく、味もよく、そしてどの人が買っても間違いない芋だということで、その大部分は東京や大阪の方に出荷されているんですけども、毎年日本で一番高い、ジャガイモ界のまさにヴィトンやシャネルじゃないかと思って頑張って日々取り組んでおります。

その中でやはり三島馬鈴薯の効果ということで、やはり三島コロッケというのが、これはもう皆さん大部分の方が御存じだと思うんですけども、この三島馬鈴薯を100%使用したコロッケということで、もう立ち上げて10年ぐらいになるんですかね。私もその立ち上げ当初からの生産者代表ということでメンバーに入って、この三島コロッケを盛り上げていこうというのを10年前からやってきました。

今でこそ本当にいろんなメディアで注目されて、B1の全国大会でも8位と9位と、入賞するようなものになったんですけども、やはり立ち上げのころからそういう要素があったかということ、それはなかなか厳しいものがあったんですよ。

その中で何でここまで発展してきたかということ、やっぱり我々生産者だったり、行政だったり、農協さんだったり、メディアだったり、商工会の方だったり、それぞれの分野の方が三島を盛り上げよう、三島の産物を使ってシティプロモーションにつなげようというそういう本音のお互い業種の壁を乗り越えた連携というのが、本当にこのプロジェクトにはあったなと思います。

自分は三島で農業していると、あまりその良さというのを感じないんですけども、昨年僕はJA三島管内の青壮年部というのがあって、1年間部長だったんですね。そうすると県の農業会館とか、静岡県のいろんな各市町の青年部長と話をしたり、飲んだりしたりする機会があると、みんな「三島はいいな」と言うんですよ。「何がいいの？」のというと、

三島は非常に行政とかいろんな方が農業に非常に理解があると。非常に積極的に支援をしてくれたり、援助をしてくれるから、三島はうらやましいなど、僕はすごく言われたんですね。

確かに振り返るとそうだなと思います。やはり農家に対する支援もそうですし、新たな販路に対する取り組みもそうですし、そのことを記事とかメディアに載せてPRしてくれる、そういうような動きも非常に整っていて、ここは本当に農家として素晴らしい、本当に自慢できるところなんじゃないかなと思います。

そういった中で、自分は紹介等にもある箱根ファーマーズカントリーというところで、若手生産者の代表をさせてもらっているんですけども、これは今メンバーが10人います、三島市と函南町の30代、40代の農家で活動しております。新たな販路を、もともとはJA三島函南青年部の仲間だったんですけども、仲間で飲んでいるだけじゃなくて、僕らで何か仕事ベースの活動をしようということで、いろいろ積極的に売り込んだりとか、活動しております。

その中で、我々年に1回12月にギフト販売という野菜の詰め合わせをやらせていただきまして、それは三島市さんのふるさと納税の方に載せていただきました。また昨年からは函南町さんの方にも載せていただき、非常に好評ですね。多くの注文をいただき、非常に三島市さんも函南町さんありがたいなと思っております。

やっぱりこのようにどうしても僕ら農家というと自分の仕事に籠もりがちで、いろんな異業種さんとの交流であるとか、いろんなビジネスチャンスという情報も含めてなんですけれども、非常に発見するのがなかなか難しいなと感じております。ですので、やはりそういうような、もっとうこういうことがあるぞとか、こういう取り組みがあるぞというのを何かうまい方法で僕らにわかるような形があると非常にありがたいかなと思います。

広報誌とかJAさんの方でもそういう冊子があるんですけども、やはり隅から隅まで読んでいるかという、なかなかそうではないのが現実だと思うので、何かめぼしいことがあればすぐこういうのがあるよとわかりやすく伝達するいい方法があればなと思います。

あとは自分も毎年、地元の小学校に年に1回3年生を対象に三島市の農業の授業を、出前講座というんですかね、1時間、3年生の前でしゃべるということを毎年やっています。

これは非常にいい取り組みなんじゃないかなと思うので、いろんなところ、食育活動とかいろいろやっているんですけども、やっぱりその子どもたちも10年とか20年たてば自分たちの大事なお客さんになるので、そういった形で自分たちのことをちゃんと伝えて

いくというそういう手法も大事かなと思います。

あとはやはり三島馬鈴薯というと、去年10月、G Iという国のお墨付きをいただいた制度の認証を受けたんですけれども、三島市、函南町も含めてここの地域、要は神戸ビーフや夕張メロン、そういった全国のブランドと並ぶ三島馬鈴薯というものがある、そういう産地なんだというのを改めて皆さんに理解していただき、理解していただいたら、ちょっとだけ高いんですけれども、お金を出して買っていただくというようなものに結びつけると僕らも非常にありがたいかなと思います。

あと県の皆さんとか、これからの行政へのお願いというのは、短期的なことと長期的なこととあるんですけれども、やはり短期的なことだと、我々三島市とか函南町ですと、どうしても山あいが傾斜地だったり、国のプロジェクトの農地集積とか大規模化というのは、正直しにくいところはあると思います。その中で、やはり僕らが農業を続けていくためにはクオリティーというのがどうしても売りになっていくので、そこをうまくサポートしていただけるような体制であるとか、あと特に最近では鳥獣害の被害とか、シカとかイノシシなんかもありますし、あとは雨が降るとわかっていても、予想を上回る雨というんですか、対策は自分たちでもやるんですけれども、想像を超えるような異常気象というのがあるので、そういうような対策というのもしっかりやっていく必要があるんじゃないかなというのは思います。

あと長期的には教育というところで、農業のよさとか、あと農業というと、どうしても肉体労働で非常にきついか、汚いか、汚れたりというのものもあるんですけれども、そういったものを、でもそれを乗り越えたところに三島馬鈴薯のようにG I取得につながる産品があるというような、単に効率とか大変ということじゃない価値観、新しい価値観みたいなものを植え付けていくような教育といいますか、授業というのは大事なんじゃないかなと思います。

最後に1点、今日は三島市さんと函南町さんを中心のお話なんですけれども、僕最近びっくりしたのは、御殿場でこれからサツマイモをつくって切り干しをやるみたいなことをニュースで見たんですよ。隣の三島にこんなにいいサツマイモがあるのに、何で御殿場でサツマイモをつくって切り干しやるんだというふうに思って、確かに遊休農地で、しかもあそこ田んぼなので、恐らくサツマイモをつくっても、おいしいサツマイモはできないだろうというのはプロの考えなんですけれども、だから単体でまちおこして大事なんですけれども、もう一步踏み越えて、例えば三島と御殿場とか、三島と函南とか、それぞれの

いいところもあるので、そういった広域に連携して、六次化であるとか、農商工連携に取り組んでいくというのも非常に大事なことなんじゃないかなというのをちょっと思いました。

以上です。ありがとうございました。

【発言者6】

酪農王国株式会社の発言者6と申します。本日はこのような機会を頂戴し、誠にありがとうございます。また、関係者の皆様にも感謝申し上げます。

私が勤務しております酪農王国オラッチェは、おかげさまで今年の9月に開業20周年を迎えます。地域の皆様に支えたいいただいたおかげだと、心より感謝申し上げます。

私自身はオラッチェに勤務して16年、今日のこの機会に自分の16年を振り返ってみました。私が丹那へ来たころは酪農家が51軒、牛の飼育頭数が1,200頭弱いました。ところが今は酪農家は12軒、飼育頭数で800頭まで減少しています。当然ながら丹那地区の人口の減少も進んでおりまして、農家の担い手不足は深刻な状況が続いております。

オラッチェの設立当初は、伊豆の観光スポットとして観光メインで経営をしてきましたが、やはり観光だけでは非常に苦しいという時代を経験してきました。新たなビジネスチャンスを探り、さまざまなことに挑戦してきましたが、数年前から丹那地区の皆様と共同で事業を展開する取り組みを始めました。

農家から畑の一部をお借りして、観光の収穫体験用の野菜の栽培からスタートし、作付けの指導ですとか、収穫作業のお手伝いを地元の方をお願いをし、またその翌年は畑の面積を広げ、収穫体験用野菜にプラスして、自社のレストランで使用する野菜、店舗で販売する野菜をつくりました。

また、その翌年には休耕田をおこして、ビール用の大麦を作付けし、自社製造ビールの原料に使用しました。先ほどHiPsの発言者2さんからもお話がありましたが、この大麦を使ったビールがちょうどここでまた発売になりまして、今日、静岡新聞さんに載せていただいております。

また牛の飼料、餌用に酪農家が作付けをしているトウモロコシ、ここは6,000平米ほどのトウモロコシ畑に迷路をつくってみました。これが夏場限定のイベントとして定着をしまして、昨年の夏はわずか1カ月ちょっとの間に1万5,000人の集客がありました。

結果、現在は丹那盆地の中に3万平米、約9,000坪ちょっとの畑を今お借りして、地元への受益の還元をしながら、地域の皆様ともつながりも強く大きくなり、そして雇用も増

えました。従業員数が 40 名なのですが、そのうち 17 名を今丹那在住の方々に勤めていただいております。目新しいことをやるよりも、丹那の資源を最大に活用して、ビジネスにつなげていくことが私どもオラッチェの役割であり生きる道だと、社員一同実感をしております。

地産地消、食育、循環型農業、それから六次産業化という取り組みは、丹那地区では何十年も前からでき上がっていたんだなということに気づきました。丹那牛乳というブランドを味方に、歴史やストーリーをさらに勉強し、地域資源の活用と観光とを結びつけて、さらに雇用の促進、人口の増加、担い手の確保、休耕田・耕作放棄地の利用等、地域の皆様とともに丹那の魅力を発信していこうと思っております。

ふじのくにづくりの基本理念でもあります「世界からあこがれを呼ぶ理想郷」、この計画を達成するために、まずはこの丹那の小さなコミュニティで我々の理想郷を完成させ、まさに丹那ドリームの始まりかなというふうに思っております。

次に、今年 5 月にオープンします道の駅伊豆ゲートウェイ函南についてです。私はこの道の駅の出荷者協議会の会長を仰せつかりました。出荷者協議会とは、道の駅で販売する函南町内の農産物や加工品の出荷者の集まりで、地産地消をテーマに 50 余りの個人・法人で構成されております。当然農家の構成比率が高いものですから、函南町産の新鮮で安心・安全な野菜が数多く出荷されることとなります。

伊豆の玄関口に位置する道の駅の役割は、主として観光となることは間違いありません。伊豆の水先案内人としての観光情報の発信とともに、土産物、特産品の充実した売り場づくりの準備は順調に進んでおります。観光の情報も、出荷される野菜も、どちらも新鮮なものを観光客の皆様にお届けし、行きも帰りも気持ちよくお立ち寄りいただける道の駅となるよう期待しています。

当然のことながら、売り先があれば農家は作付面積を増やし、我々加工食品製造者は新しい商品を企画します。そこで売れる商品をつくります。この流れが一時的な盛り上がりで途絶えぬように、出荷者協議会ではブランド化やイベント企画、函南町ならではのおもてなしで努力してまいります。私は丹那で学んだ地域連携、これを道の駅でも取り組んでいこうと考えております。

観光客、地元の方々の交流の場、それから地元農産物や加工品を消費する場、さらに今後は路線バスの乗り継ぎの場等、人・物のハブ機能を持った道の駅となることが理想です。

そのために 1 点お願いがございまして、実は役場の前を走っています県道 11 号線、ここ

が昨年道路看板の観光看板の規制が入りまして、私ども6カ所ほどオラッチェの看板を撤去して、上り下り1カ所ずつだけ残してあります。

これにより景観は非常に守られてよかったなと思う反面、実は丹那のわかりにくい山の中なものですから、ナビゲーションを見てきても道に迷ったんじゃないかというお客様が多々いらっしゃいまして、問い合わせが増えてきています。それから道の駅もできますものですから、できれば公的な看板、熱海方面、下田方面、函南町内、三島方面というような公的な看板を増やしていただけると非常に助かるなと思います。

我々出荷者はオープンまでの残り3カ月間、万全な準備をします。函南という地の利を生かして生産された商品に着目をし、新たに特産品をつくるということではなくて、今までの歴史を改めて見直し、そのストーリーを付加価値として生かしてまいります。今後とも御指導、御鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。以上でございます。

【川勝知事】

今それぞれ三島の発言者5さんと函南の発言者6さんから農業・酪農に関わる御発表をいただきまして、大変勉強になりました。

三島のメイクイン、馬鈴薯は、三島コロッケと結びつきまして、今や誰でも知っている。これは一時期御紹介したかと思えますけれども、皇太子殿下が育樹祭に来られたのを覚えていらっしゃるでしょうか。5年ほど前ですかね。それで育樹祭は天皇・皇后両陛下がお植えになったものにお手入れをされて、その後いろいろと育樹に関わる器具を展示するというので、それは袋井のエコパのスタジアムでなされたわけです。

帰り、掛川から東宮の方にお帰りになるというその掛川の駅に着くところで、侍従の方から私の方に「三島コロッケというのがあるそうですね」と、こういうお話だったわけです。「もちろんございます」と。「それでお幾つぐらい?」「10くらい」と、侍従がそんなことを言うわけがありません。ですから皇太子殿下が明らかにそのお話をされた。

掛川、それから静岡、新富士、三島、は「ひかり」が止まりませんから、それですぐにそのときに沼津にいたのが現政策企画部長なんです。現政策企画部長に連絡をしまして、10個御入用であると、それでしかし用心のために20個欲しいと。部長が言うには、「はい、わかりました」と。それで自分が何号車に行き、そこで本当にコロッケを届けられるでしょうかと、そのことだけはちゃんとやっておくと。本当に先回り、届けに行ったときにちゃんと渡せるかどうか、そんなことがありまして、実はお渡しできた。

それでやがて御礼に参上するわけです、東宮に。私が参上いたしまして、皇太子殿下に

は直接お目にかかれませんが、しかし、侍従がお相手されまして、「この間のコロッケのお味はいかがだったでございましょうか」と、こういうふうになんかお聞きした。そしたら「とてもおいしくいただきました」と言われましたので、恐らく侍従にもお分けなされたんじゃないでしょうか。愛子様と、それから雅子皇太子妃と楽しまれたと。ですから、もう5年ほど前に国の象徴でいらっしゃいます皇室にまでこれが伝わっているということになります。

それでG I、geographical indicationということで世界的ですね。そういうことで、私感心いたしましたのは、発言者5さんが小学校を中心に授業をされていると。これ食育ということで、私ども静岡県下には農業経営士だとか青年農業士だとか、漁業経営士だとか林家だとか、そういうプロをお願いをしているわけですが、食育をやっているんですが、発言者5さんのおっしゃったのはすごいと思ったのは、この方たちは10年たったらお客さんになると。なるほどなと、こういう感性というのすごいなというふうに思いましたね。

もちろん体で学ぶというのが私は一番いいと思ひまして、農業とか漁業とか林業とか、そのほかスポーツとか芸術も含めてですけども、そうした体で学ぶことというのは人を立派にしていく1つの道である。何も英語、数学、国語、理科、社会ができることだけが人を立派にする道ではないということで、特に今はいわゆる実学と称しているものに、例えば高校ですと農業学校、商業高等学校、こうしたところに知事賞を出しています。少年少女たちが別の道を知るのがいい、体で知るのがいいというふうに思っております、そうしたことを発言者5さんが仲間と御一緒にやっただいていただいているのは誠にありがたいと。これは全県的に進めたいというふうに思っております。

それが私は発言者6さんの言われる地域、丹那ドリームとおっしゃいましたけれども、地産地消で地域のことを知るということに、それがまた地域を、例えば道の駅でこれから売っていくというときには観光資源と食材も合わせて売っていくわけですけども、そのときにこの地域のことを知っていることが大事で、どういう地域かと。発言者6さんは世界クラスと言われました。

実は富士山は平成25年6月22日に世界文化遺産になりました。同じときにお茶畑が世界農業遺産になりました。それから同じ年に和食が世界無形文化遺産になったんです。和食というのは新鮮な食材を大事にします。その食材が一番日本で多い県はどこでしょうか。静岡県です。439あります。富士山が日本一高い山、2番はどこだ、問題にならないでしょ

う。北岳だということですからけれども、知らなくていいわけですね。それくらい圧倒的なわけです。ですから食材がたくさんあるということは、実は和食が、静岡県のために世界無形文化遺産になったということです。

ただし、我々は和食って言いません、「和の食」と言っているんですよ。ジャガイモをつくる、コロッケをつくる、洋食でいただく。もちろん和食という形でもいただくと。しかしこれをどんなふう料理するか、チャイニーズ料理、イタリア料理、あるいはフレンチ料理、和食に、その他もろもろのエスニックの料理、何をしてもその名人というのをちゃんと表彰しようということで、県産材を使っておいしく、何も高くということではありません。いい食材をいい調理師で、気持ちのいい形でお客様に提供されている人たちを、県下に2万軒のレストランがあるんです。

レストランではなくてつくっている人、仕事人として表彰、1%の200人、それが知らなかったとか、聞いてなかったとかという人がたくさん出てきて、今は430名ぐらいいらっしゃいますが、そういうふうになっているんですが、それがあって、特に和食は「和の食」としてやっております。

平成26年にはそうしたものが9件に増えました。例えば深良用水だとか、それから一昨年、2年前は11件に増えたんです。そこにはノーベル賞の天野先生も入っております。世界クラスの人たちが、三島の遺伝研究所の女性の太田朋子先生、あの方もクラフォード賞を取られたでしょう。そういう方も含めて、世界クラスの人材、世界クラスの地域資源が、昨年は21件できたんですよ。

そうすると平成25年の6月から今月まで、ちょうど44カ月です。44カ月で44件ですよ。44件の世界クラスの地域資源と人材が降ってくるわけです。すぐそこにあります駿河湾、これもメキシコで総会があつて、世界で最も美しい湾として認定されましたという朗報が降ってきたわけです。こうしたことで一体何が起きているんだろう。つまり、それは静岡県が世界クラスの県だというそういうニュースが、富士山が世界文化遺産になったのがきっかけになりまして、どんどん降ってきている。だから世界クラスなんですよ。

世界クラスのところに人をお迎えするので、2年前に静岡県にお越しになった観光客数は1億5,000万人です。日本の人口は1億2,000万人ですから、それより3,000万人多い人たちが来ていらっしゃる。宿泊者数は一昨年の統計しか今は出ていませんけれども、174万人です。外国人の宿泊者数、これも過去最高です。去年、日本全体でお越しになった方たちは2,400万人ですね。その前は1,970万人ぐらい、去年2,400万人、今年は恐らく3,000

万いくでしょう。

そして2020年にオリンピック・パラリンピックが来ます。そのときはここに道の駅ができています、川の駅もできています。その人たちは必ずごはんを食べる、泊まるわけですから、三島市はちゃんともう2020年までに立派なホテルができる。こちらには道の駅をつくって、売れる商品を発言者6さんは置いていくと。そうすると16年前には50軒ほどあったものが、今は十数軒になってという酪農家も売れるということであればそれをつくる。

つまり、生産者を励ますことになるということで、そういう時代に今なりつつあるんですね。

そのときに一番わかりやすいのは景色です。そのときに看板というのが大事です、目に見えますから。ですからそれがわかりやすいということが大事なので、それからまた重要であることが大事で、自分さえよければというわけにいきません。ですからそこらあたりの看板についても、先ほど道の表示との関わりで、わかりにくいところはきちっと公的にわかりやすく表示するというようなことは、これからとても大切になります。

その意味で違法の広告物はない方がいいと、きれいですからね。そうした観点で、例えば三島市長さんは電柱、これをまず片方全部埋設されたでしょう。今度やっぱり函南町長さんは、電柱の一番大事なところを埋設するというのをなさって、そういうふうにいたしまして、景色がこの電柱や電線で妨げられないようにするというのをなさっておられるんですよ。これはやっぱり世界クラスのところですから、つまり言葉がわからない人でも、ぱっと見てきれいだなと、おいしいなということでこれができる。

まして、トランプさんが就任されます。彼は聖書に手を置いて、GOD BLESS AMERICAと最後におっしゃると思いますが、聖書に手を置くということは、コーランに手を置いているんじゃないんですよ。言い換えると、自分はイスラム教徒でない、クリスチャンだと言っているわけですね。

そういうのは何でもないと思っていたのが、今度はイスラム教徒がひょっとしたらイエスじゃないかと、つまりテロリストじゃないかというふうなそういう不安をまき散らされているわけでしょう。有色人種だとか、黒色だとか、あるいはヒスパニックだとか、そういう人たちは入れないとか、自分たちの利益にならない人は入れないとか、うちは今度空港がハラール食というイスラムの人たちの料理というのはアルコールを使ってはいけない、豚肉を使ってはいけない、そういうものを料理した包丁を使ってはいけないというふうなことですけれども、実際には和食は全部ハラールにそのままなっているんですね。

ですからイスラムの方もどうぞと、有色人種の方もどうぞ、来る者は拒まずです。ですから世界の丹那ドリームは実は本当に静岡のドリーム、ふじのくにのドリームということで、富士山もそういう存在じゃないでしょうか。いろんな登る道がありますよと。どの人たちも皆そういう道を究めてくださいと。

それで、あれかこれかじゃなくて、あれもこれもなんですね。牛乳もいい、お茶もいい。牛乳は朝飲む、学校で休み時間に飲んで、そしてランチタイムの給食のときにはお茶を飲む、それは両方できるでしょう。牛乳は飲まなくちゃいけない、お茶も飲まなくちゃいけない、どっちにするか。両方なんですよ。それが和です。和というのは足し算でしょう。1と1と和は2と言うじゃないですか。大いなる和と書いて大和（だいわ）、訓読みしてください。「やまと」でしょう。日本はいろんなものを入れて調和させるということができると、こういう国なわけですね。

その中心に今、実は日本全体がなりつつあり、その中で東京というのは、要するに欧米の真似ですから、ここは丹那、箱根、あるいは富士、あるいは駿河湾、こうしたものは全部日本独自の本物ですよ。これを活用してその大地の恵みを料理にして、そしてきれいな空間の中でおもてなしをするという時代が数年後に本格的に始まるということで、今日はそういう担い手の方たちの代表者が発言者5さんであり、また発言者6さんじゃないかというふうなことで、これも特段私は付け加えることがなくて、そういうことでありますので、自信を持って進めていただきたい。

それから発言者5さんが広域連携ということを言われましたね。伊豆半島全体で13の市町があります。しかし東部はまた10の市町があります。こうしたところが、おれがおれがというんじゃなくて、もう函南と三島の話は、皆さんのいろんなところで連携しているということがよくわかりました。この連携の仕方を、例えば伊豆ですと創造センターとして、こちらは東部とずっとつながっていますから三島の方は。ですから、そういうところと連携して、それぞれの地域のよさを生かしていくべきではないかという発言者5さんの御提言はそのとおりです。市町の首長先生の間ではそういう考え方が共有されておりますけれども、まだ住民にそういう考え方が全町民、市民に行き渡ってないかもしれません、考え方としてはおっしゃるとおりだということでございますので、不十分なところはいろいろと御指摘いただきまして、改めていきたいというふうに思います。ありがとうございました。

【傍聴者1】

函南町平井、傍聴者1と申します。本日は平太さん、ありがとうございます。御礼申し上げます。こういう機会は今まで函南町にはなかった。

今いろいろ意見が出ましたけど、ジャガイモ、メークイン、そういうものについて、機械掘りではできないんだと、手掘りでやって、時間もかかる、費用もかかります。機械掘りにして、検査の方は、コンベアに載せるとか、そういうふうになったら傷が付きま

す。そういうものについて、食べ物はスピード、鮮度、これが第一である、そういうことを農家の方は肝にしてもらいたいと思います。

もう一つ、HiPsの方から言われましたけど、場所の提供ならば、ここ函南町のこの役場建物、1階を見てください、ここの1階です。あの広場が年間空白です。あの建物とこの建物、あれだけのものが空間であるということです。あれを確認して帰ってください。これは大きな問題です。

もう一つ言うならば、いろいろなものは全部支援とか手当とか、お金のことが全部絡んでいる、我々生活する人間については。全国初めての単独でもいいから議論をしてもらいたいのは、政務費、ガソリン代だ何だかんだ、知事も言っていましたね、はっきりと新聞に出ていました。不透明感があるから、今見直さなければならぬ。見直さなくてもいいの。政務費は完全に全国初めて、トップで静岡県がゼロにしてください。これを県庁に帰って議論をしてください。これを申し上げて私の意見は終わります。

【川勝知事】

発言者5さんが5町歩、これを手掘りですらやっていると。すばらしいですね。そしてそれは皮が傷まないようにと、そして美しい、おいしいと。私こういう感覚は、この風土がつくったんじゃないかと思えます。美しくなければならぬと、おいしくなくてはならぬと、これは富士山の姿と同じじゃないかと思うんですよ。こうしたものを大切にするとするのは、東京のビルの真ん中でコストだけ考えている人は思いつかないではないかというふうに思えますね。

静岡県では後期高齢者という言葉はないんですよ。実は45歳までが青年です。青年会議所が40歳まででしょう。いわゆる商工会議所の青年部というのは45歳が多いんですよ。それから壮年に入りまして、健康寿命が一番高いのが静岡県の女性で76歳です。76歳までは壮年です、元気なんですから。77の喜寿でお祝いしてください、自分を大事にしてください。80代になられると中老になります。88の米寿になると長老になっていくんですよ。つまりだんだん偉くなっていくんですよ。

それでさっき発言者4さんがボランティアとおっしゃったでしょう。本当に政治はボランティアでいいと思う。それで、これは制度上の問題がありますから、私がこう言ったからといってすぐできるものじゃありませんけれども、考え方は一緒ですよ。ですからみんなができるようにするには、例えば午後6時から議会を開く、あるいは土日に開く。仮に議員に選ばれた人は、会社に勤めていらっしゃる方は5時には必ず退社できるように皆が協力するというとだれでもなれるじゃないですか。

ですから、そういうふうにして、住民がある特定の方たちだけに任せなくて済むようなやり方を、特に若い青年たちが閉塞感を感じていますから、ですから政務費をゼロにすればといっても、これ議会が議決するのに反対されればできませんね。ですから私は君主じゃないのでできませんが、考え方がよいということです。

【傍聴者2】

函南町の傍聴者2と申します。知事と同世代で同じ23年生まれですけれども、私はサラリーマンをリタイアしまして、年金生活で無職でございます。その無職が皆さんの成功例を聞いていて、すばらしいなと思います。知事の明るさ、これは23年生まれだから明るいなと思っていますけれども、そういうお答え、すばらしいなと思って感謝しています。

ちょっとお願いしたいのは国民保険の件なんですけれども、今までは単独市町村でやっていた事務方を県へ委託すると、県の方でやられるということでございまして、ぜひ期待したいのはその点でございます。

先ほどから静岡県はナンバー1ということで、健康寿命ですね、これは認めております。しかし健康診断の率というのは非常に低いわけですよ。だから健康寿命がナンバー1で、それで健康診断の率が低いということを考えますと、本当に健康診断することが寿命を延ばしているのかという不安もあるわけです、逆説で言いますと。

だから言いたいのは、今静岡県は健康寿命ナンバー1ということであれば、さっき言われていたHiPsさんのように、健康運動をして、それで上がればいいんですけども、医療費、ここにも病院があります。医療費がかかっているからナンバー1であっては、余り偉そうには言えないと思うんですよ。

そこでお願いしたいのは、要は健康診断ですね。健康診断と本当に寿命とが相関しているならば、1つは健康診断を条例化してください。それがやっぱりわからないのであれば、基本的には国民保険、これを我々年金者で2割近く取られると、先ほど知事が言われた孫に接することが減っちゃうんですよ。

だから国民年金がほかに使えれば、一つ消費も進むでしょうし、サイクルにもなるでしょうし、そこでなるべく日本一の健康県であるならば、国民健康保険というものをもっと安くする方法を本当に考えていただいて、それでリサイクルするような方法をぜひお願いしたいということでございます。以上です。

【川勝知事】

どうも傍聴者2さん、ありがとうございました。健康診断と、それから健康寿命の関係は私は知りませんが、ただ癌検診というのはございまして、今日本の中で一番死亡率が高いのは癌です。癌は早期発見が一番なんです。ですから、健康診断を受けねばならないと思います。特に若いときに癌にかかりますと進行が早いです。これはもうまだお父さんやお母さんもいる、子供もいたりすると非常に不幸なので、健康診断はお受けいただかなければならないと思います。

それから実は静岡県は全体としてお医者様の数が10万人当たりうんと少ないんですよ。かつては47位とか、本当に恥ずかしかったんですが、今でもまだ40番台だと思います。しかし医療費を10万人当たりになると、下から数えた方が早いです。だからお医者様の数は少ないけれども、医療費がかかっていないと。それは実は裏返せば健康だということなんです。

ですから、その意味で医療費をなるべくかけないようにするということはおっしゃるとおりで、特に年金生活になると、これは負担がかかりますから非常に深刻な問題で、一緒に考えなくてはいけないし、なるべくかからないようにすると同時に、健康診断をきちっと受けていただいて、悪いところは早期に直していくということが大事です。

それから健康寿命について、全世界健康であることを願っていますが、静岡県というのはちゃんと調査していたんです、どういう人が長く生きているかと。そうすると、閉じこもっている人、家に閉じこもって出ていこうとしない人と、それから出ていく人、軽く運動することを続けている方たちですね、こういうのを全部統計取りますと、引っ込み思案になっている方々は、申しわけないけれども早く死ぬんですね。それで傍聴者2さんみたいに社会参加される方、それからHiPsとか、ふぁむみたいに、健康に気をつけて一緒にジョギングしたり、歩いたり、軽い運動を継続している人、この3つ。

もう1つ食でした。サプリメントでなくて食に気をつけていろいろなものを万遍なく旬の物をいただくというそういう食に気をつけて、かつ社会参加をし、軽い運動を継続されている方が健康寿命が長い。健康寿命がみずから長くなることは、それ自体が世界一のあ

こがれになることなんですよ。だから自分が健康で長生きすることが、世界中のあこがれになるという何ということだと。つまりそういう立場にいるわけですね。

だけどいずれはおぼしめしでお迎えが来るということでしょうが、なるべくぴんぴんころりでいられるようにどうするかということ、しかし、もしいざというときにはどうするかということになりまして、負担がかからないように、みんなで公平に分けられるようにということで皆苦心しておりますが、これから国民健康保険に関わりましては、私どもが担当することになりますね。これは函南並びに三島市とよく話し合いまして、皆様方に負担増にならないようにするということはお約束いたします。

御発言いただきましてありがとうございます。御礼を申し上げます。